

令和2年度 3学期終業式 挨拶

暖かい朝をむかえました。みなさんおはようございます。

45日間の3学期が終わり、4月6日の始業式には元気な皆さんの顔を見たいと思います。さて、今日はいよいよ今年度最後の終業式を迎えました。明日から17日間の学年末休業に入ります。

そこで、今日は、私の好きな、春にちなんだこんな短文を紹介します。

春がきた。夏がきて 秋がきて、冬がきて また春がきた。

同じことのくりかえしのようにも見えるけれど、

樹々は一まわり大きくなった。

それぞれに、それだけ生長している。

決して同じではない、くりかえしではない。

これは、パナソニック(松下電器、ナショナル)を一代で築き上げた松下幸之助氏の言葉です。

皆さん、昨年春からの、この1年間で、自分はどれだけ成長したのかを振り返ってみてください。

先日私は、ある男子生徒に「身長が伸びたなあ」と問いかけたところ、「そうでもありませんよ」と少し恥ずかしそうにこたえてくれました。何も変わっていないのではないのか、と思い悩む人もいるのかもしれませんが、進化のスピードに違いはあれ、人間は着実に成長しているものです。ただ自分自身が気付いていないことが多いのではないかと思います。私自身2年前の春初めて校長という職につきました。この講話をするにあたり、自分自身のことを考えてみると、やはり2年前の4月と比べると校長として成長し、仕事をこなすことができるようになってきているのではないかと思います。それは2年間つきあってきた本校の先生方の成長をみても同じでどんどん進化して下さっているなと感じます。

ただ私は成長するためには2つの条件があるのではないかと思います。

一つは「意思(向上心)」です。自分はいいい仕事をしたいとか、今より上手になりたいとか知識を増やしたい、友達とうまく人間関係を作りたいという意味です。

二つ目は「経験に基づくこと」だと思います。仕事や学習、人間関係は過去の自分の経験や体験に基づいて、その上に積み上げていくものだと思います。「大変な仕事だな」、「めんどくさい学習内容だな」と思ったとき、何かしらの理由を付けて回避するのではなく、過去の自分の経験や学習でどうやったら解決できるかを考え、乗り越えるような習慣をつけてください。

それぞれの生徒が1年間あるいは2年間の学校生活を経て、今後どんな成長していくのかを見て行くことが私の楽しみでもあります。